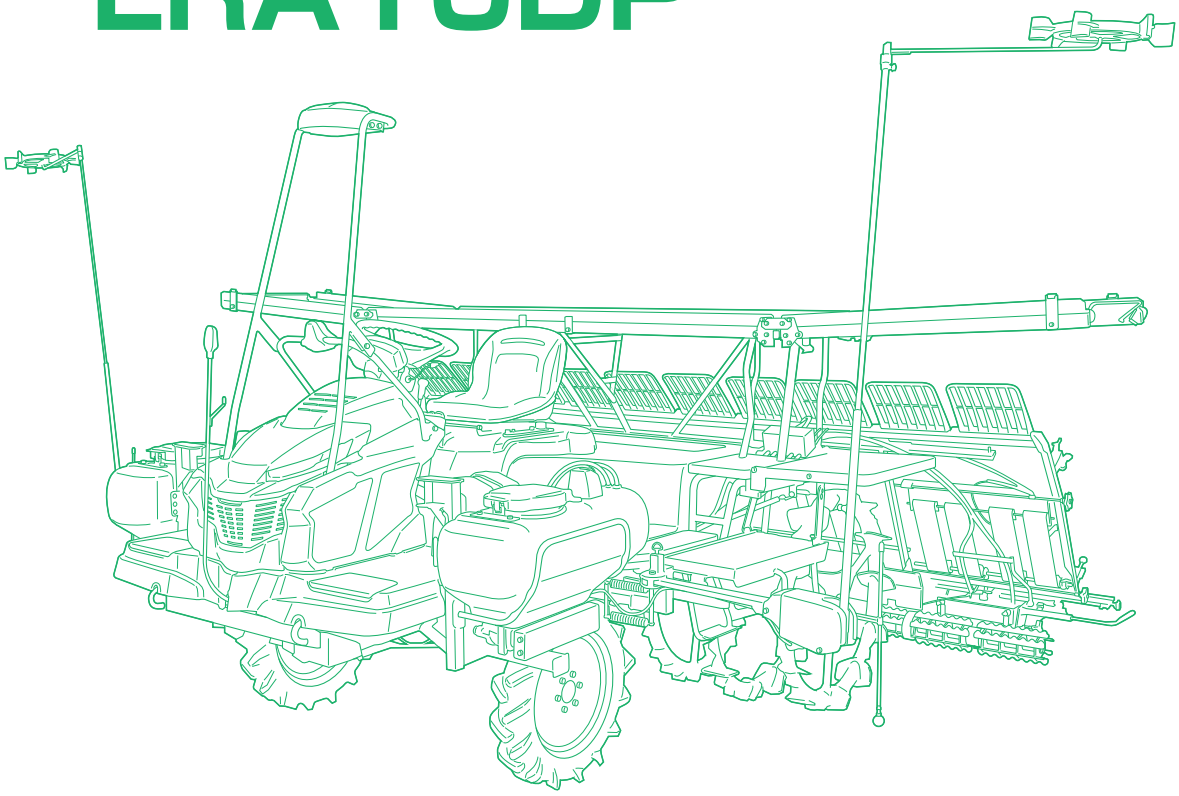
ペースト施肥機
取扱説明書

LRA10DP



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

施肥機重要ポイント

1. 移動やトラック運搬するときは、

肥料を抜いて行います。

---

2. 施肥機を点検整備するときは、

必ず安全な場所で、エンジンを停止して行います。

---

3. 補助者と共同作業を行うときは、

合図をし状況を確認します。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

正しく作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要ポイントは上記のとおりですが、これ以外にも、本文の中で作業上ぜひ守っていただきたい事項を ⚠ を付して説明のつどとり上げております。
さらに、田植機の取扱説明書とあわせて、よくお読みいただくとともに、必ず守っていただくようお願いいたします。

重要なお知らせ

- このたびは、三菱施肥機をお買いあげいただき、まことにありがとうございました。
- 本商品は、肥料散布のための作業機として使用してください。
  改造や使用目的以外の作業はしないでください。
  改造や使用目的以外の作業をした場合は、保証の対象にはなりませんのでご注意ください。
  （詳細は保証書をご覧ください。）
- 三菱マヒンドラ農機株式会社（以降当社と記す）は、この取扱説明書記載の指示事項を守らなかったり、三菱施肥機（以降施肥機と記す）を改造したり、あるいは運転・保守作業にあたり、通常必要とされる注意または用心をしないで生じた損害または傷害に対しては一切責任を負いません。
- この施肥機の取扱上の危険について、すべての状況を予測することはできません。したがって、この取扱説明書の記載事項や施肥機に表示してある注意事項は、すべての危険を想定しているわけではありません。
  よって、施肥機の操作または、日常点検を行う場合は、この取扱説明書の記載および施肥機本体に表示されている事項に限らず、事故防止対策に関しては十分な配慮が必要です。
- 施肥機の性能、故障および耐久性は、それ自身の設計の良否、使用材料の適否および製作技術の巧拙によることはいうまでもありませんが、他方、日常の取り扱い、整備いかんによることも、また看過できません。
- この施肥機は、国内での使用を前提にしています。したがって、海外諸国での安全規格等の適用・認定等は実施していません。この施肥機を国外へ持ち出した場合に当該国での使用に対し、事故等による補償等の問題が発生することがあっても、当社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。
- 傷害の発生を避けるため、本来の使用目的以外の施肥機の使用やこの取扱説明書に述べている以外の運転・保守作業はおやめください。
- 本施肥機を譲渡または貸与される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分理解していただき、この取扱説明書を施肥機に添付してお渡しください。譲渡（または転売）される場合は、必ず譲渡先を当社へご連絡ください。また、添付されているすべてのものを譲渡し、譲渡（または転売）した側は一切の複製物を保持しないでください。
- この取扱説明書の内容は施肥機の改良のため、予告なしに変更する場合があります。
- 本施肥機とこの取扱説明書のイラストとは異なることがあります。またイラストの一部は、施肥機内部の説明を容易にするために省略していることがあります。あらかじめご了承ください。
- この取扱説明書は版権を有します。この取扱説明書の全体もしくは部分的にも、当社の事前の文書による同意なしに複写、コピー、翻訳してはならず、また読み取りのできるいかなる電子装置や機械にも転写しないでください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに「お買いあげ先」にご注文ください。
- さらに詳しい情報を必要としたり、質問があるとき、または内容につき不明な点がありましたら「お買いあげ先」へお問い合せください。

警告表示について

本施肥機を正しくお使いいただくために、この取扱説明書の指示に従って操作・保守を行ってください。また、施肥機で危険が想定される箇所またはその付近には警告ラベルを貼付しています。取扱説明書および警告ラベルでは、危険の程度を表す方法として次の表示で区分しています。

■表示の説明

⚠ 危 険	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠ 警 告	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ 注 意	その警告に従わなかった場合、けがを負うおそれがあるものを示します。
注 意	その警告に従わなかった場合、装置の破損、故障のおそれがあるものを示します。
補 足	知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。

■図記号の意味

危険に対する注意・表示は次の3種類の記号を使って表しています。それぞれの記号は次のような意味で区分しています。

⚠	注意の喚起	この記号は指示を守らないと、危険が発生するおそれがあることを表します。記号の中の絵表示は危険の内容を図案化したものです。 （右図の場合は爆発注意）	（例）
⊘	禁止行為	この記号は行為の禁止を表します。記号の中や近くの絵表示は、してはならない行為の内容を図案化したものです。 （右図の場合は火気厳禁）	（例）
❗	強制行為	この記号は行為の強制を表します。記号の中の絵表示は、しなければならない行為の内容を図案化したものです。危険を避けるためにはこの行為が必要です。 （右図の場合はメガネ着用）	（例）

目　次

重要なお知らせ …… i
警告表示について …… ii
目次 …… iii

1. 使用上のポイント

1.1　警告ラベルについて …… 1
1.2　警告ラベル貼付位置 …… 2

2. 保証とサービスについて

2.1　商品の保証 …… 3
2.2　サービスネット …… 3
2.3　補修用部品供給年限について …… 4

3. 各部の名称とはたらき

3.1　各部の名称 …… 5
3.2　各部のはたらき …… 7
3.2.1　肥料タンク …… 7
3.2.2　肥料供給口 …… 7
3.2.3　排出ドレンホース …… 7
3.2.4　ポンプ …… 8
3.2.5　インジケータ …… 8
3.2.6　肥料警報センサ …… 8
3.2.7　施肥主変速レバー …… 9
3.2.8　施肥副変速レバー …… 9
3.2.9　施肥切替レバー …… 9
3.2.10　施肥ホース（タンク～インジケータ）· 10
3.2.11　施肥ホース（インジケータ～ノズル）· 10
3.2.12　ノズル …… 10
3.2.13　ノズル深さ調節ガイド …· 11
3.2.14　肥料切れモニタ …… 12
3.2.15　肥料詰まりモニタ …… 12
3.2.16　あぜクラッチ「切」モニタ 12

4. 作業前点検

……13
4.1　点検箇所と点検のしかた …… 14
4.1.1　肥料タンク …… 14
4.1.2　ノズル …… 14
4.1.3　排出ドレンホース …… 15
4.1.4　施肥ホース …… 15
4.2　注油箇所の点検と補給 …… 16
4.2.1　オイル注油箇所 …… 16

5. 運転のしかた

5.1　移動・運搬のしかた …… 17
5.1.1　開閉フタ …… 17
5.1.2　排出ドレンホース …… 17
5.1.3　運搬中の固定方法 …… 18

6. 施肥作業のしかた

6.1　施肥作業前の準備 …… 19
6.1.1　ほ場の準備 …… 19
6.1.2　肥料の準備 …… 19
6.1.3　施肥量の調節 …… 20
6.1.4　ノズル深さの調節 …… 22
6.2　施肥作業の手順 …… 22
6.2.1　苗の補給、肥料の補給 …… 22
6.2.2　肥料のくり出しかた …… 23
6.2.3　施肥切替レバーの使いかた · 23
6.2.4　作業速度 …… 23
6.2.5　旋回時、後進時 …… 23
6.2.6　肥料切れモニタの点灯 …… 24
6.2.7　肥料詰まりモニタの点灯 … 24
6.2.8　施肥作業しないとき …… 25
6.2.9　ほ場に機械を放置する場合 … 25
6.3　施肥作業後の手順 …… 26
6.3.1　残り肥料の取り出しかた … 26
6.3.2　肥料タンクの清掃 …… 27
6.3.3　ポンプ、施肥ホースの清掃 · 27

7. 点検整備

7.1　定期的な点検整備 …… 28
7.1.1　点検・給油・調整一覧表 ‥‥29
7.1.2　ノズル深さの調節 …… 29
7.1.3　チェン張りの調節 …… 29

8. 格納時の手入れ

8.1　日常の格納 …… 30
8.2　長期格納 …… 31

9. 不調時の処置

9.1　不調と処置 …… 32

10. 付表

10.1　主要諸元 …… 33
10.2　標準付属品一覧表 …… 34

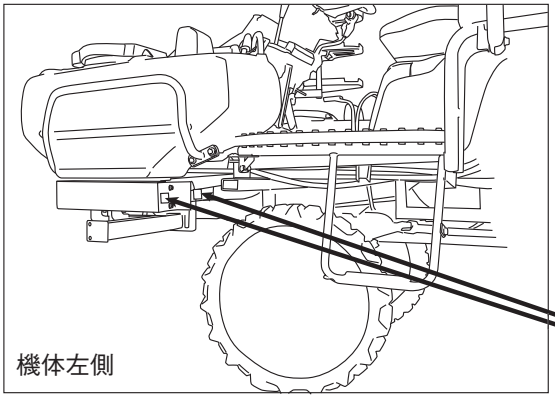
1.　使用上のポイント

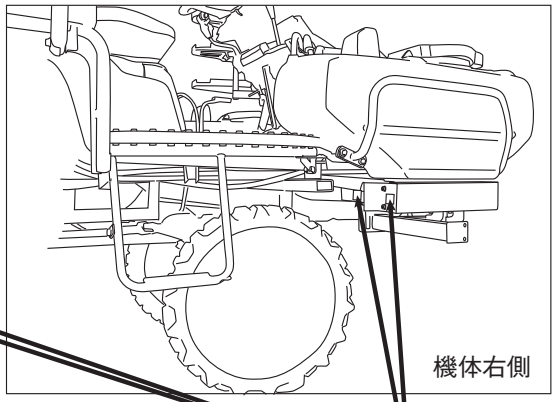
本章では、施肥機を効率よく正しくお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しています。十分に熟読されて、正しい作業を行ってください。

1.1　警告ラベルについて

- 本施肥機には、正しく作業をしていただくため、警告ラベルが貼付してあります。必ずよく読み、これらの注意に従ってください。
- 警告ラベルを破損・紛失したり、記載文字が読めなくなった場合は、新しいラベルに貼り替えてください。警告ラベルは、お買いあげ先へご注文ください。
- 汚れた場合は、きれいにふき取り、いつでも読めるようにしてください。
- 警告ラベルが貼付してある部品を交換する場合は、同時に警告ラベルをお買いあげ先へご注文ください。
- ラベルには、洗車時に直接圧力水をかけないでください。

1.2 警告ラベル貼付位置

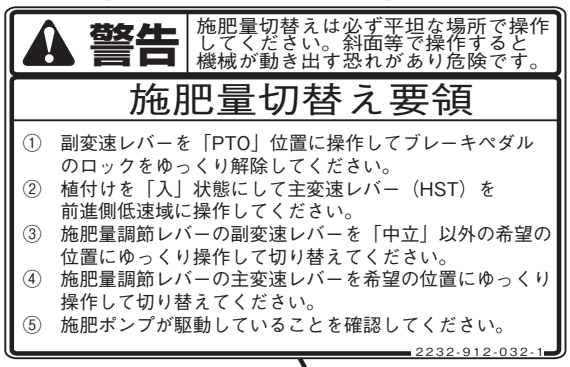


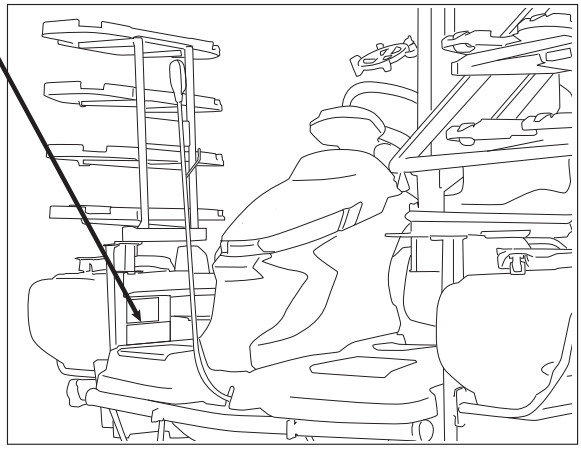




ラベル(チュウイ/ハンド)

ラベル（セヒリョウキリカエ /NP）





LRAF10001

2. 保証とサービスについて

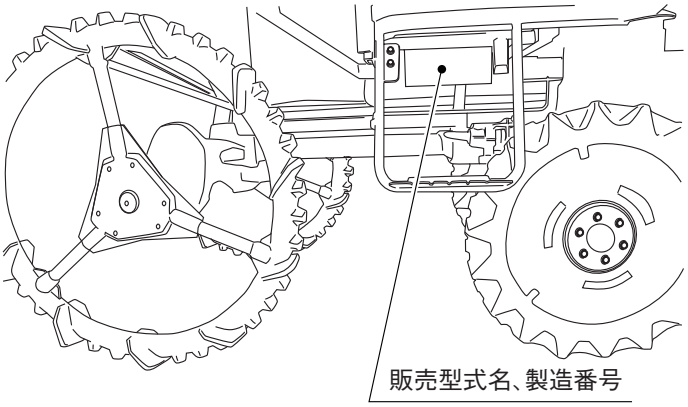
2.1 商品の保証

この商品には、三菱保証書が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

2.2 サービスネット

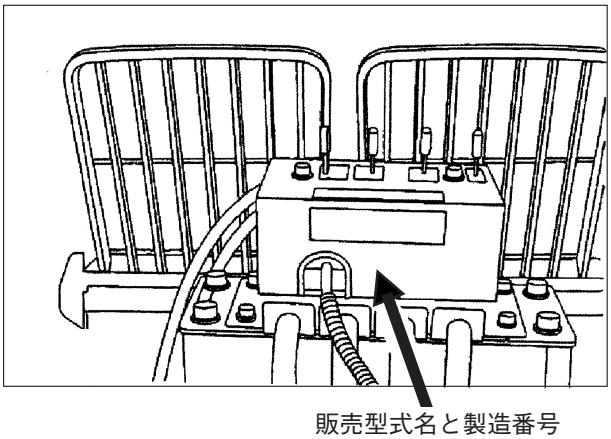
ご使用中の故障やご不審な点およびサービスに関するご用命はお買いあげ先へお気軽にご相談ください。
その際は、
(1) 販売型式名と製造番号
(2) エンジン型式とエンジン機関番号
をあわせてご連絡ください。

田植機販売型式名と製造番号



PRJ8M0002A

販売型式名と製造番号



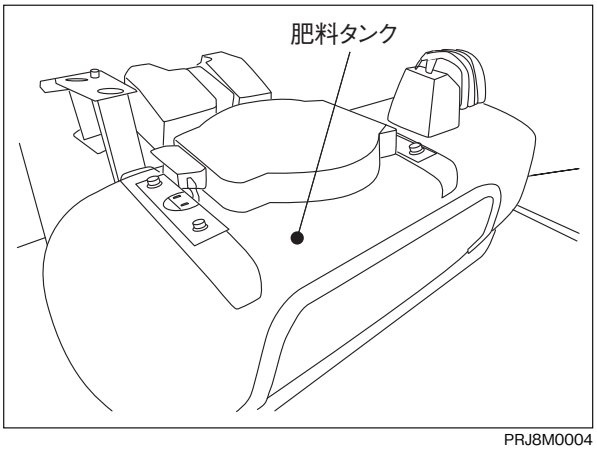
PRJM0003

2.3 補修用部品供給年限について

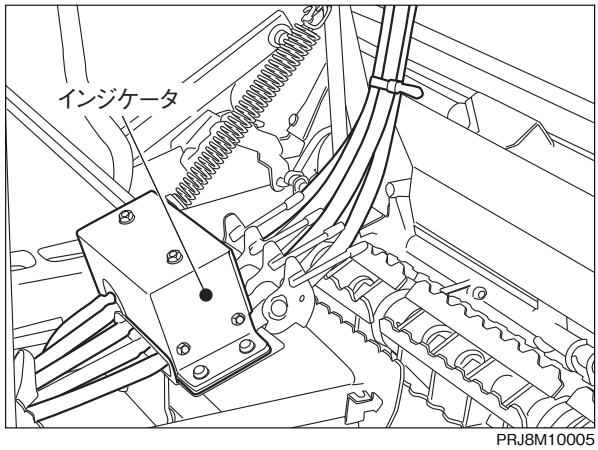
- この商品の補修用部品の供給年限（期限）は、製造打ち切り後9年といたします。
  ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
- 補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

3.　各部の名称とはたらき

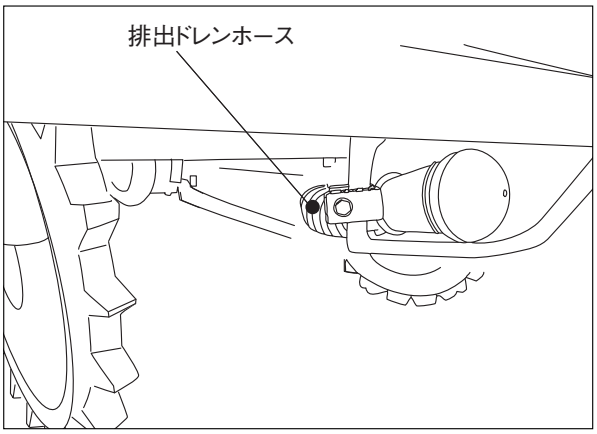
3.1　各部の名称



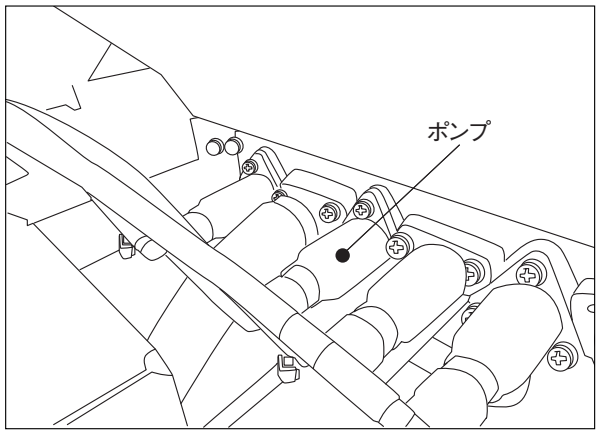
PRJ8M0004



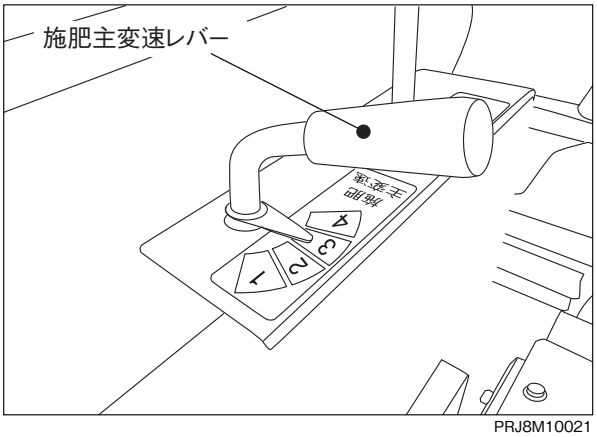
PRJ8M10005



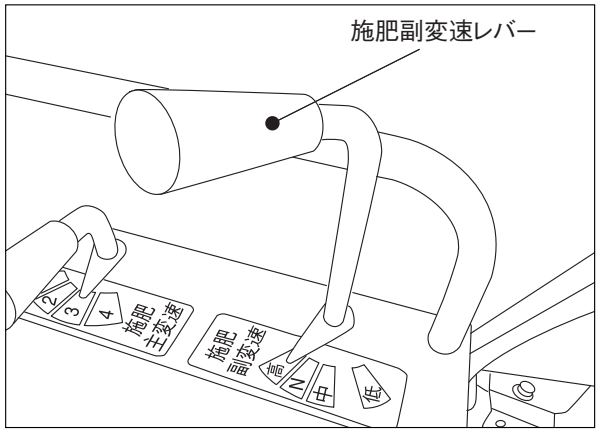
PRJ8M0006



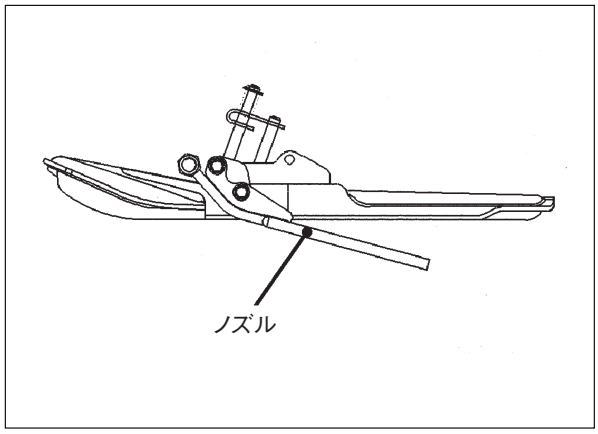
PRJ8M0007



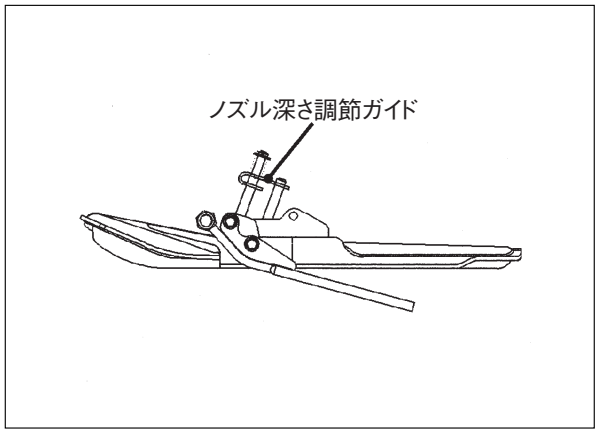
PRJ8M10021



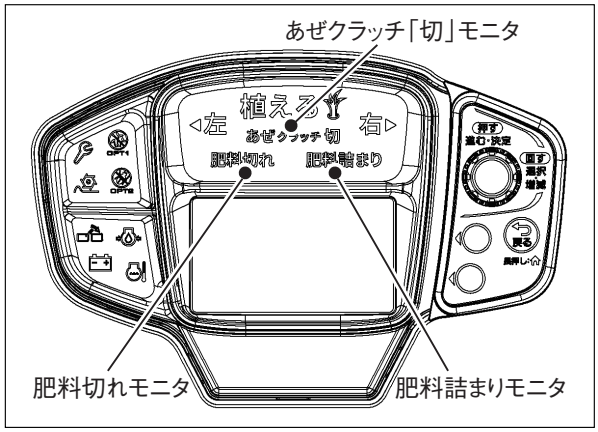
PRJ8M00221



PRJ8M0010



PRJ8M0011



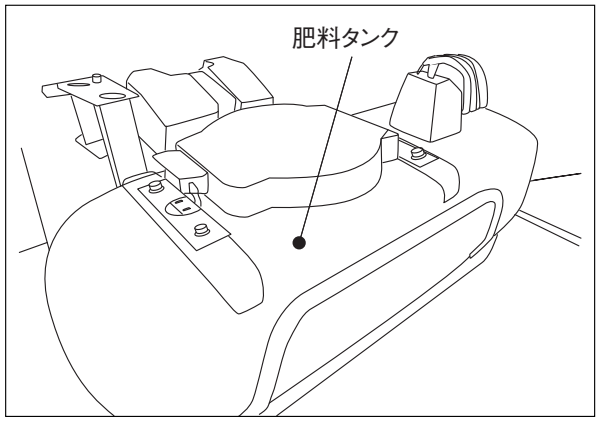
モニタパネル全体図

LRAF0014

3.2　各部のはたらき

3.2.1　肥料タンク

・ペースト肥料を入れるタンクです。



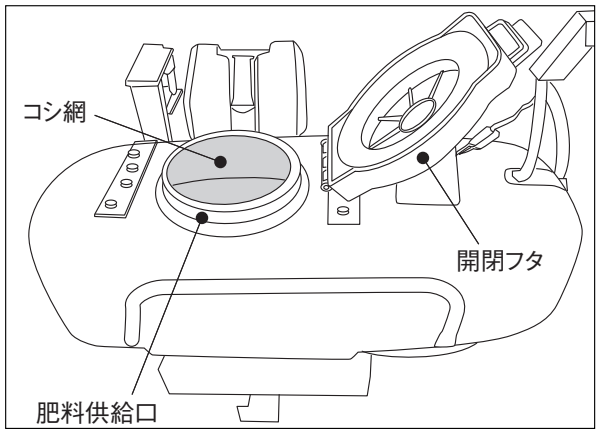
PRJ8M0015

3.2.2　肥料供給口

・タンク上部に開閉フタがあります。フックを引いてフタを開けてコシ網を通して、こぼれないようにゆっくりと供給してください。

補 足

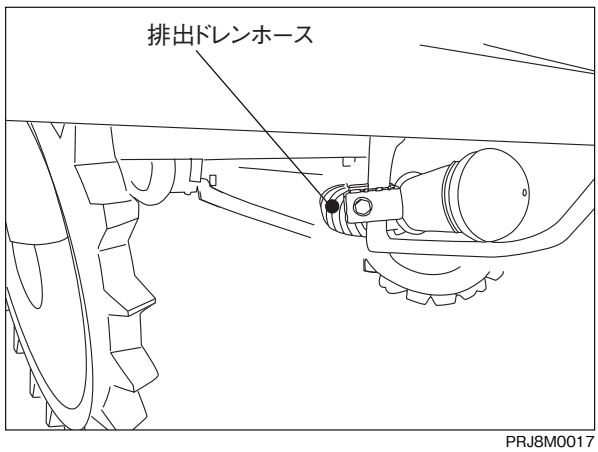
- **ほ場に入ってから肥料を供給してください。**
- **ペースト肥料は充分にもみほぐしてください。**
- **開閉フタの妨げにならないよう、苗枠を移動させてから行ってください。(☞ 11ページ)**



PRJ8M0016

3.2.3　排出ドレンホース

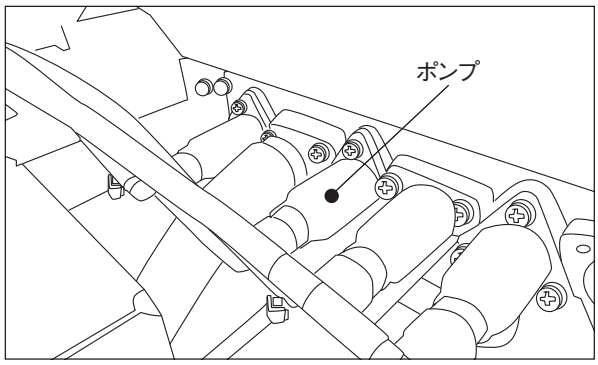
・肥料タンクに残ったペーストを排出するホースです。



PRJ8M0017

3.2.4 ポンプ

・ペースト肥料を吐出します。



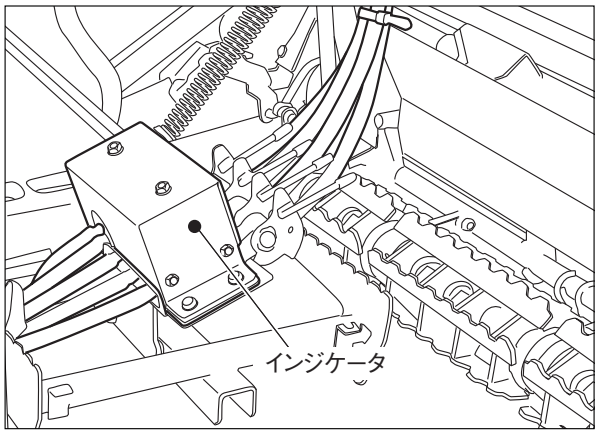
PRJ8M0018

補 足

- **肥料タンクの中に肥料や水が入っていないときはポンプを回さないでください。ポンプが焼き付くことがあります。**

3.2.5 インジケータ

・ペースト肥料の流動状態をチェックします。



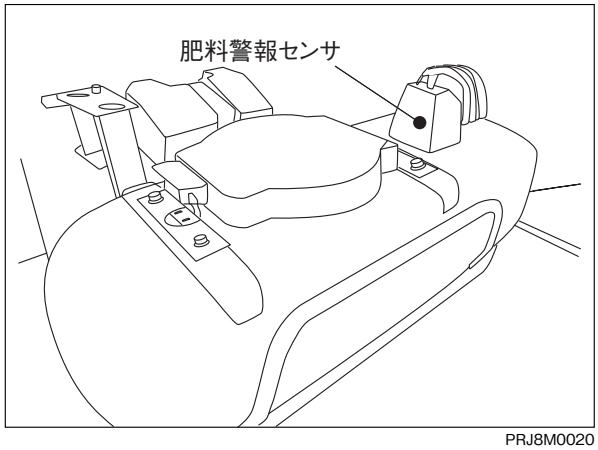
PRJ8M10019

補 足

- **インジケータには乗らないでください。**

3.2.6 肥料警報センサ

・肥料タンク内のペースト肥料の残量を感知します。
・肥料タンク内の残量が少なくなると、肥料切れモニタが点灯し、警報ブザーがなります。



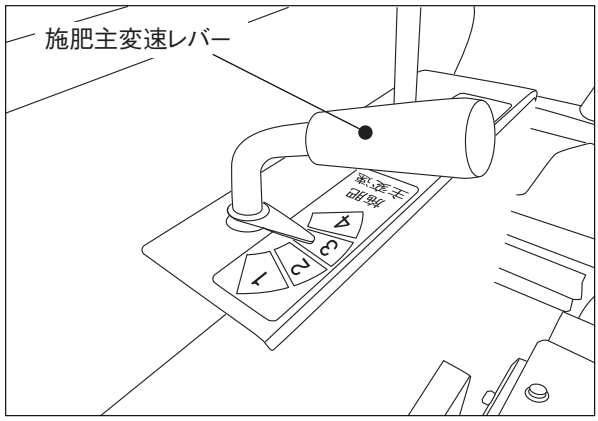
PRJ8M0020

3.2.7 施肥主変速レバー

・施肥量の切り替えをするレバーです。レバー操作により、施肥量を４段階に切り替えられます。

補 足

- **施肥主変速レバーは、ポンプに駆動を掛けながら、ゆっくり操作してください。**
- **施肥副変速レバーが「N」位置のときは、施肥主変速レバーを操作しないでください。**



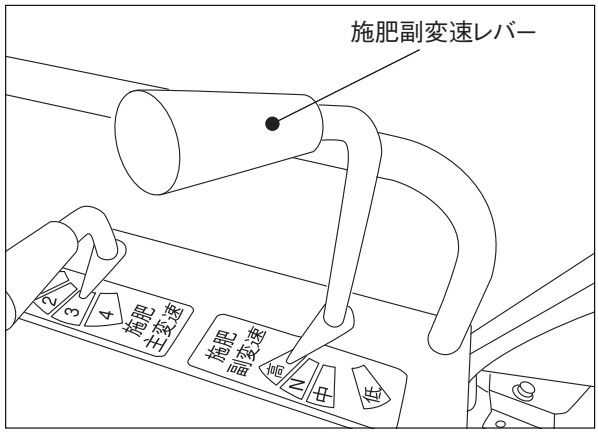
PRJ8M10021

3.2.8 施肥副変速レバー

・施肥量の切り替えをするレバーです。レバー操作により、施肥量を３段階とN（中立：施肥の停止）に切り替えられます。

補 足

- **施肥副変速レバーは、ポンプに駆動を掛けながら、ゆっくり操作してください。**



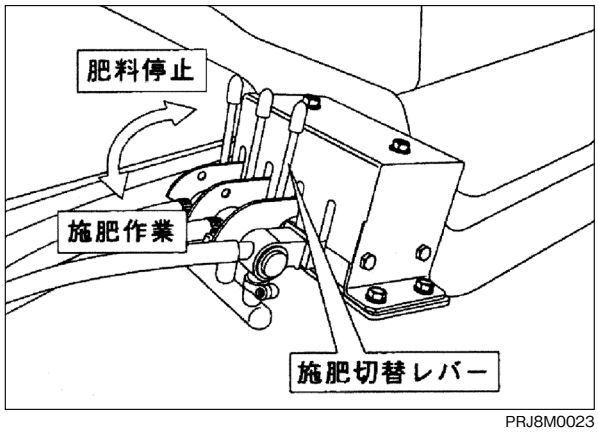
PRJ8M00221

3.2.9 施肥切替レバー

・ペースト肥料の流れを「施肥作業」「肥料停止」の各位置に切り替えられます。

補 足

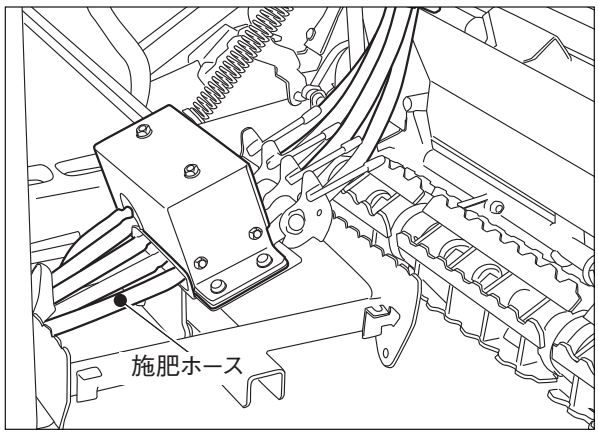
- **本機のあぜクラッチスイッチとは、連動しておりません。**
  操作忘れにご注意ください。



PRJ8M0023

3.2.10 施肥ホース（タンク～インジケータ）

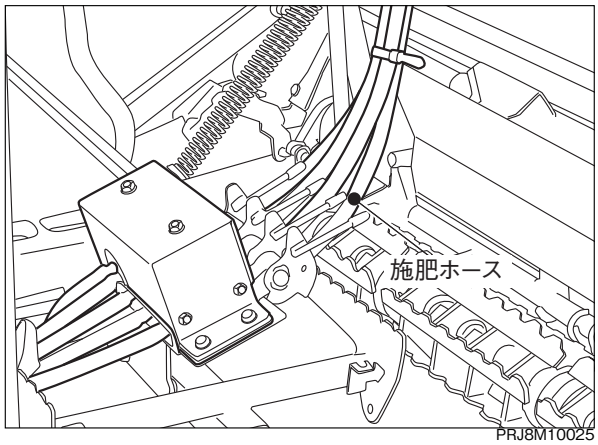
・肥料タンク下のポンプとインジケータをつなぐホースです。



PRJ8M10024

3.2.11 施肥ホース（インジケータ～ノズル）

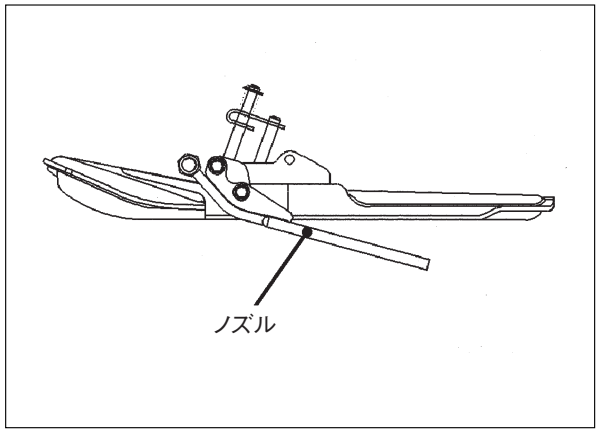
・インジケータとノズルをつなぐホースです。



PRJ8M10025

3.2.12 ノズル

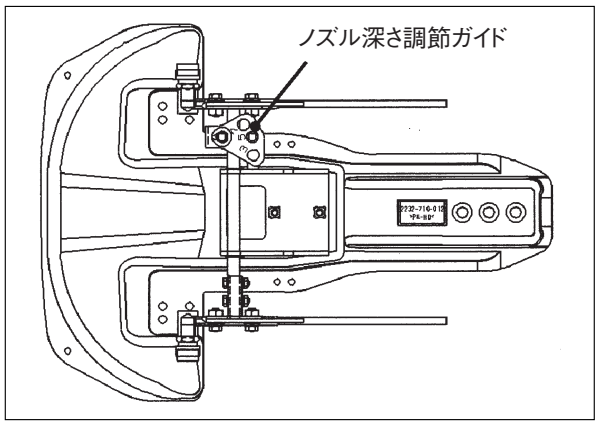
・ペースト肥料を土中に注入します。



PRJ8M0026

3.2.13　ノズル深さ調節ガイド

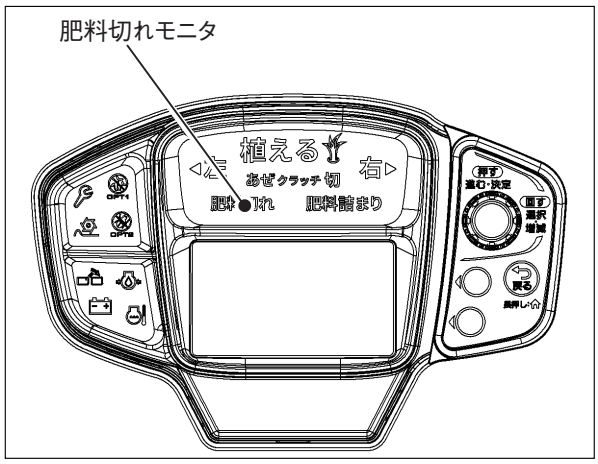
・ノズル深さを「3cm」「5cm」「7cm」の３段階に調節するガイドです。



PRJ8M0027

3.2.14 肥料切れモニタ

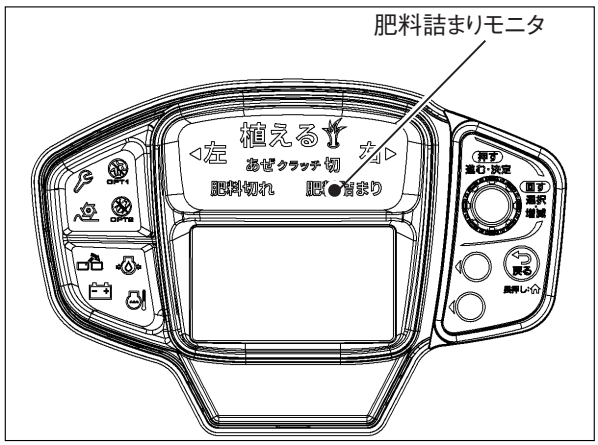
・植付作業中に肥料タンクの肥料が減ってくるとモニタとブザーで知らせます。
（ブザーは約８秒後に自動停止します。）
・肥料タンクに肥料が無い場合は、エンジン始動時にモニタが点灯し、また植付部「下降」操作時に一定時間後モニタとブザーで知らせます。



LRAF0030

3.2.15 肥料詰まりモニタ

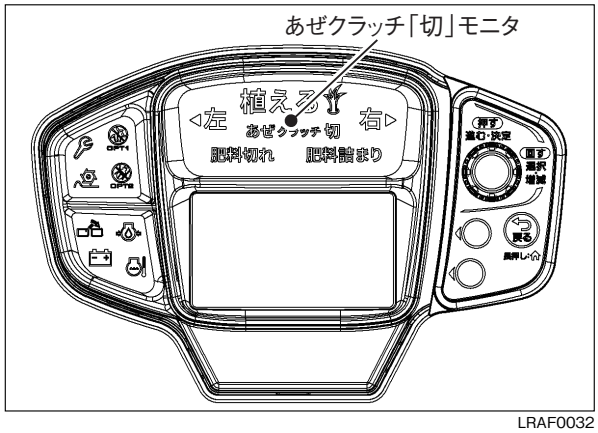
・肥料が詰まったときにモニタとブザーで知らせます。
（ブザーは約８秒後に自動停止します。）



LRAF0031

3.2.16 あぜクラッチ「切」モニタ

・施肥切替レバーを「肥料停止」位置にするとモニタが点灯します。
・本機側のあぜクラッチスイッチを操作して、植付を停止するときもモニタが点灯します。



LRAF0032

4. 作業前点検

故障を未然に防ぐには、施肥機の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
始業点検は毎日欠かさず行ってください。

⚠ 危険

給油、注油および点検整備は、エンジン等の過熱部分が十分冷えてから行ってください。
※　守らないと、やけど等の原因となります。

肥料タンクやノズル、ホースを点検するときは、必ずエンジンを停止してください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

給油、注油および点検整備するときは、くわえタバコ等の火気厳禁です。
※　守らないと、火災の原因となります。

⚠ 警告

点検・整備をするときは、平たんな広い場所で行ってください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

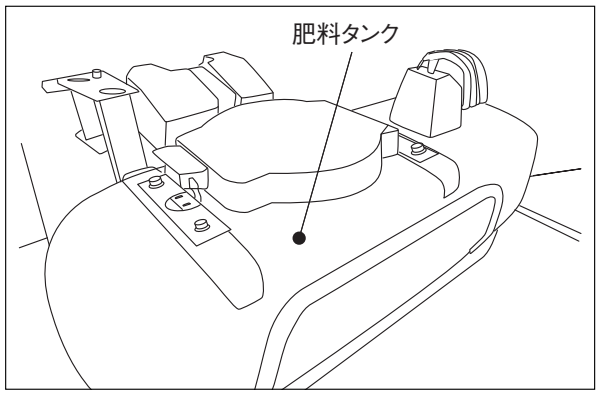
点検や整備をするときは、十分な明るさを確保してください。
※　暗い所で行っていると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

点検・整備をするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキペダルをロックし、植付部を降ろすか植付部の油圧を油圧感度調節ダイヤルで「油圧ロック」位置にしてから行ってください。
※　守らないと、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりするおそれがあります。

4.1 点検箇所と点検のしかた

4.1.1 肥料タンク

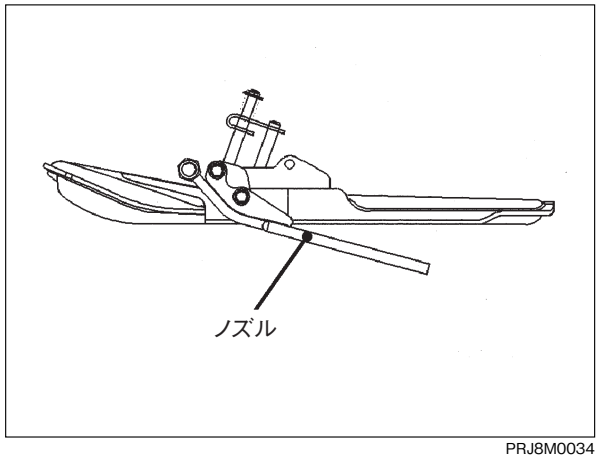
・肥料タンク内部に古い肥料や異物があれば取り除いてください。肥料詰まりの原因になります。



PRJ8M0004

4.1.2 ノズル

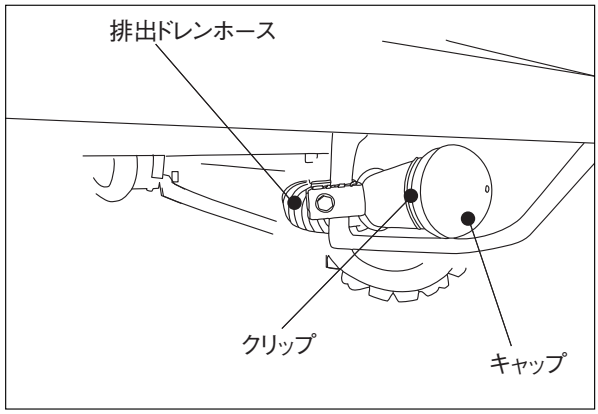
・ノズルに肥料や泥等が付着していないか確認し、付着があれば取り除いてください。肥料詰まりや植付姿勢が悪くなる原因となります。
・ノズル深さを確認してください。生育に影響する原因となります。



PRJ8M0034

4.1.3 排出ドレンホース

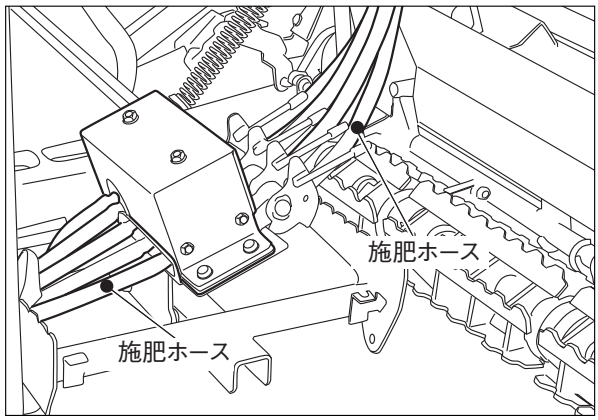
・キャップがきちんと挿入されていること、クリップがきちんとはまっていること、フックに排出ドレンホースがきちんと入っていることを確認してください。ペースト肥料もれの原因となります。



PRJ8M0035A

4.1.4 施肥ホース

・ポンプ～インジケータ～ノズルの施肥ホースに肥料詰まりや折れ曲がり、潰れがないか確認してください。施肥不良の原因となります。



PRJ8M10036

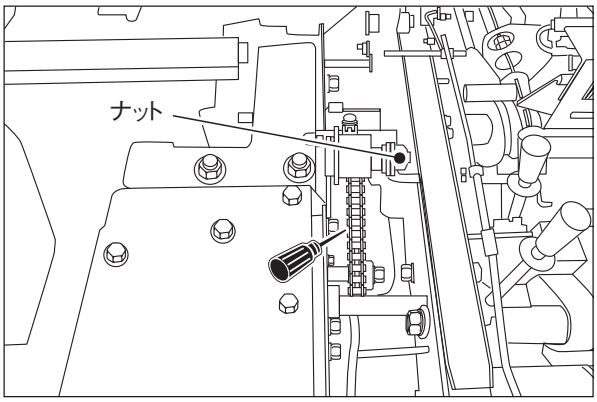
4.2 注油箇所の点検と補給

補 足

- 毎日作業前に下記箇所にチェン用スプレーグリースを吹き付けてください。
- チェン張り調節時はナットをゆるめ、調節してください。(☞ 7.1.3 チェン張りの調節)

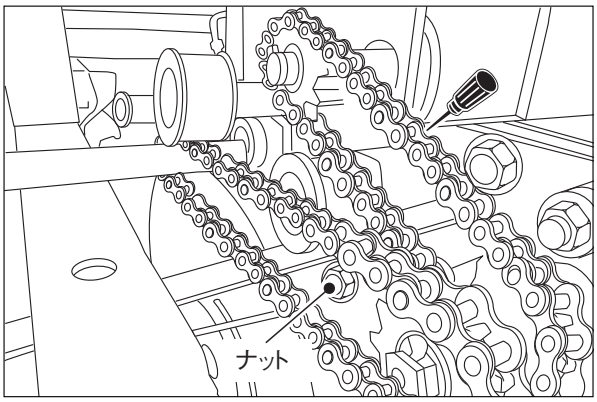
4.2.1 オイル注油箇所

駆動チェン（変速入力）



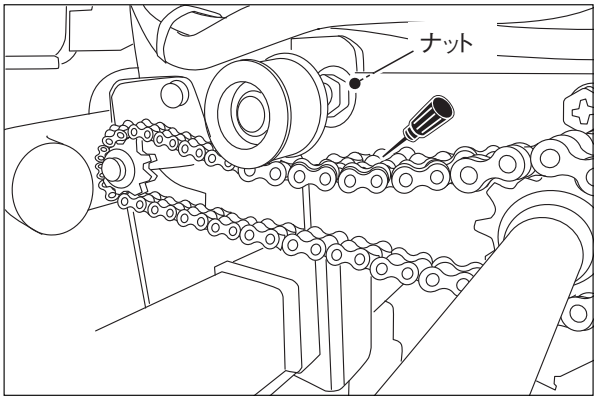
PRJ8M0037

駆動チェン（カウンタ）



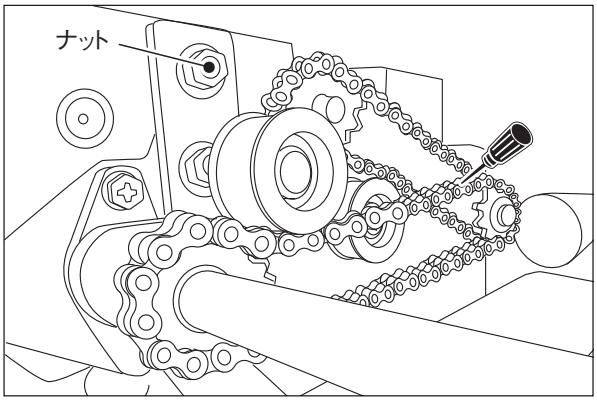
PRJ8M0038

駆動チェン（左側ポンプ駆動）



PRJ8M0039

駆動チェン（右側ポンプ駆動）



PRJ8M0040

※ステップ、チェンカバーは外しています。

5.　運転のしかた

⚠ 警 告

室内で運転するときは、窓を開けて換気を十分に行ってください。
※　換気が悪いと排気ガスによる中毒の原因となります。

エンジンを始動するときは、必ず座席に座って、変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の状況を確認してから行ってください。
※　確認を怠ると、急発進して傷害事故を引き起こすおそれがあります。

エンジンを始動するときは、周囲の人に「声」をかけ合図してください。
※　守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

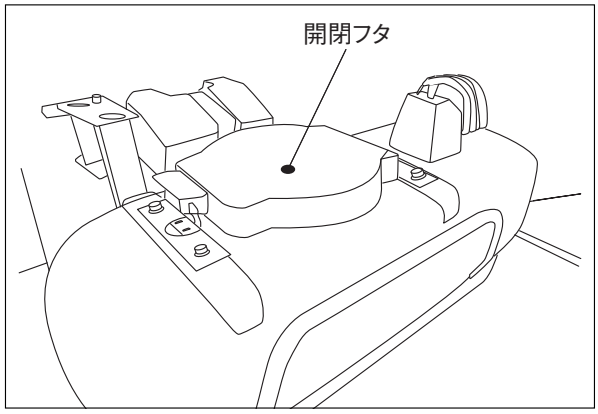
⚠ 注 意

始動する前に保護カバー類が取り付けてあるか確認してください。
※　カバー類を取り付けていないと、田植機に巻きこまれ傷害事故の原因となります。

5.1　移動・運搬のしかた

5.1.1　開閉フタ

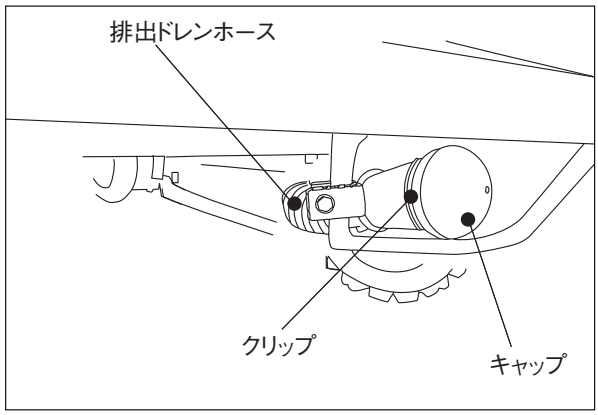
・開閉フタがきちんと閉じていることを確認してください。



PRJ8M0041

5.1.2　排出ドレンホース

・キャップがきちんと挿入されていること、クリップがきちんとはまっていること、フックに排出ドレンホースがきちんと入っていることを確認してください。



PRJ8M0035A

5.1.3 運搬中の固定方法

1 前輪を車の後部にひきつけて、ロープで固定してください。

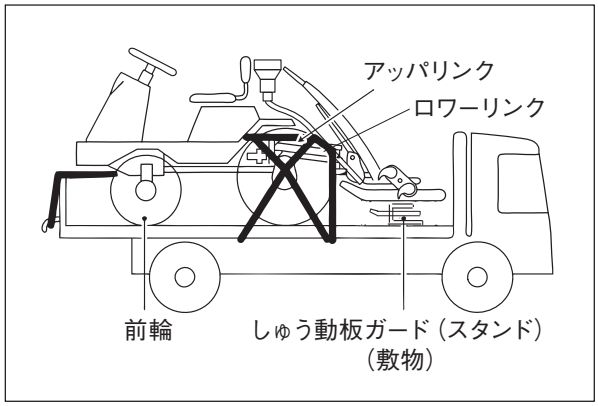
2 後輪をロープでたすき掛けにして固定してください。

3 しゅう動板ガード（スタンド）を立てるか、フロートの下に敷物を置いて植付部を降ろしてください。

4 アッパリンク又はロワリンクにロープをかけ、植付部がバウンドしないように、固定してください。

補 足

- **植付部を上昇したままやリンクにバウンド防止のロープ掛けをしなかった場合、リンクや植付部の損傷につながります。**



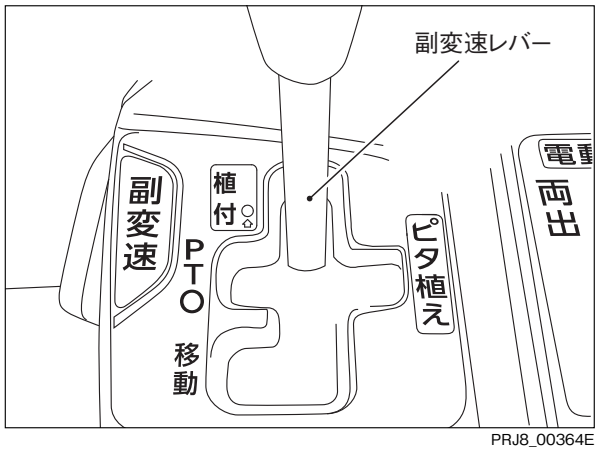
PJ10M0043

5 副変速レバーを「植付」位置にしてください。

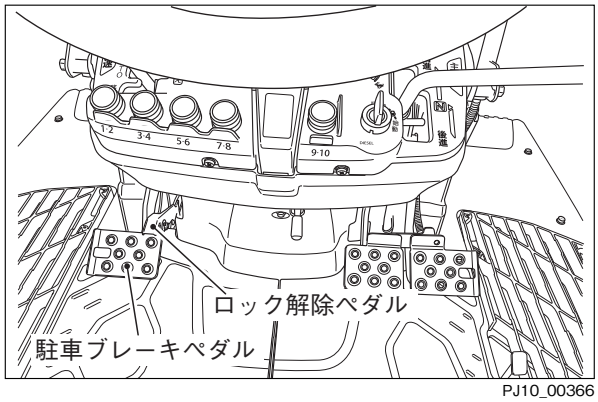
6 駐車ブレーキペダルを踏み込みロックしてください。

補 足

- **肥料タンクに肥料を入れたままの移動は行なわないでください。**
- **凸凹道はさけてゆっくり移動してください。**
- **肥料や苗を積んだままの移動や自動車などへの積み降ろし、運搬は行なわないでください。**
- **運搬するときは、施肥機の部分にはロープ掛けしないでください。**
- **ノズルを床に接地させないでください。**



PRJ8_00364E



PJ10_00366

6. 施肥作業のしかた

⚠ 警 告

作業中は、作業者以外の人（特に子供）を田植機に近づけないでください。
※　田植機自体や、作業による飛散物等で、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

運転中は、エンジン・マフラ等の過熱部、バッテリ端子等の通電部等には手を触れないでください。
※　傷害事故の原因となります。

作業を開始するときは、周囲の状況を確認し、特に補助者とともに作業するときは、合図してから行ってください。
※　守らないと、傷害事故の原因となります。

あぜの高さが高いところでのほ場の出入りや、やむを得ずあぜを横断するときは、必ずアユミ板を使用してください。
※　守らないと、スリップや転倒するおそれがあり、傷害事故の原因となります。

6.1　施肥作業前の準備

6.1.1　ほ場の準備

■ほ場

・通常の乗用田植機で田植作業する場合とほ場条件は変わりませんが、長いままの切ワラはノズルに引掛り溝を掘る場合がありますので、できるだけ取り除いてください。

補 足

● **ほ場に切ワラを散布する場合､「切ワラは5cm以下」にしてください。**

6.1.2　肥料の準備

■肥料

・ペースト肥料は、１袋20kgがダンボール箱入りで販売されています。
・施肥計画に基づき、ほ場の面積と必要施肥量を計算の上、必要量よりやや多めに準備してください。
・長く放置していたペースト肥料はうわずみができることがあります。うわずみができた場合、袋を転がすようにしてよく攪拌（かくはん）してください。
・ペースト肥料の内容器は樹脂フィルム製で固定しにくく不安定ですので、右図のようにバケツに一度移し替えてから、肥料タンクに注入するとほ場でも安全、かつスムーズに行えます。



PRJ8M0046

補 足

- **指定ペースト肥料以外の肥料は使用しないでください。**
- **肥料供給口のコシ網を肥料がスムーズに流れるよう、もみほぐしてください。**
- **肥料補給時に機械に肥料がこぼれたときは早めに水で洗い流してください。**
- **ペースト肥料は、その性質上、長く保存すると結晶を生成することがありますので、長期保存した肥料は使用しないでください。**
- **フロートが浮き上がると肥料が田面に流出したり、施肥深さが変動し、生育ムラの原因となります。適正な油圧感度調節を行ってください。**

6.1.3 施肥量の調節

⚠ 警 告

ほ場の出入口等の傾斜面で副変速レバーを「PTO」位置にしないでください。
※ 田植機が自然に動き出し、傷害事故の原因となります。

■施肥量

・施肥量は、地方、気候、作付品種によりことなるため、最寄りの指導機関の方のご意見を参考に多肥にならないよう注意してください。
・一般的には慣行の70％～80％程度にしてください。

慣行窒素成分施肥量	ペースト肥料標準減肥率
6kg／10a 未満の場合	約20%減肥
6kg／10a 以上の場合	約30%減肥

■施肥量の決定

・使用するペースト肥料の肥料成分から右記「施肥目安表」により、施肥主変速レバー、施肥副変速レバーの組合せを決めてください。

・窒素成量計算法（条間：30cmの場合）
N・P・K＝12-12-12の肥料を10a当り20kg 施肥した場合、窒素成分が12%なので、
20kg ×0.12 ＝ 2.4kg /10a
となり、窒素成分で2.4kg 施肥したことになります。

施肥量目安表（W仕様　条間：30cm）

	施肥調節レバー		窒素成分施肥量（ペースト肥料施肥量）kg/10a	
	施肥副変速レバー	施肥主変速レバー	標準ペースト	
			肥料成分：12-12-12	肥料成分：10-16-12
施肥量（変速組合せ）	低	1	1.6（13）	1.3（13）
		2	1.7（14）	1.4（14）
		3	2.0（16）	1.6（16）
		4	2.2（18）	1.8（18）
	中	1	2.4（20）	2.0（20）
		2	2.6（22）	2.2（22）
		3	3.0（25）	2.5（25）
		4	3.4（28）	2.8（28）
	高	1	3.7（31）	3.1（31）
		2	4.1（34）	3.4（34）
		3	4.6（38）	3.8（38）
		4	5.3（44）	4.4（44）

施肥量目安表（W仕様　条間：33cm）

	施肥調節レバー		窒素成分施肥量（ペースト肥料施肥量）kg/10a	
	施肥副変速レバー	施肥主変速レバー	標準ペースト	
			肥料成分：12-12-12	肥料成分：10-16-12
施肥量（変速組合せ）	低	1	1.4（12）	1.2（12）
		2	1.6（13）	1.3（13）
		3	1.8（15）	1.5（15）
		4	2.0（17）	1.7（17）
	中	1	2.2（18）	1.8（18）
		2	2.4（20）	2.0（20）
		3	2.7（23）	2.3（23）
		4	3.1（26）	2.6（26）
	高	1	3.4（28）	2.8（28）
		2	3.7（31）	3.1（31）
		3	4.2（35）	3.5（35）
		4	4.8（40）	4.0（40）

■施肥量の調節

（1） 植付部をいっぱいまで上げ、油圧感度調節ダイヤルを「油圧ロック」位置にしてください。

（2） 本機の副変速レバーを「PTO」位置にし、駐車ブレーキペダルをゆっくり操作してロック解除してください。

（3） 植付入切スイッチを押して、植付クラッチを「入」にし、本機の主変速レバーを前進側に少し動かしてください。

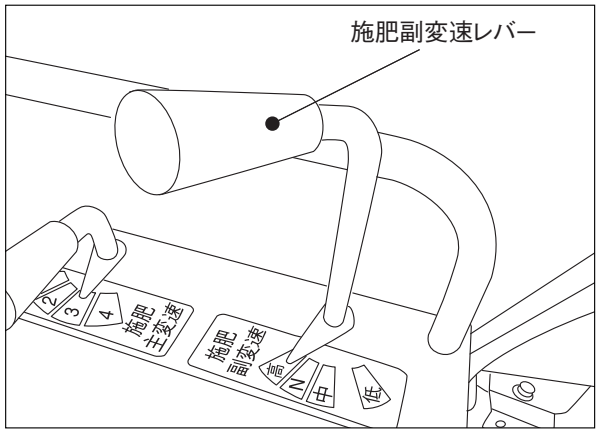
（4） 施肥調節レバーの施肥副変速レバーを「N」以外の希望の位置にゆっくり操作してください。

（5）施肥調節レバーの施肥主変速レバーを希望の位置にゆっくり操作してください。

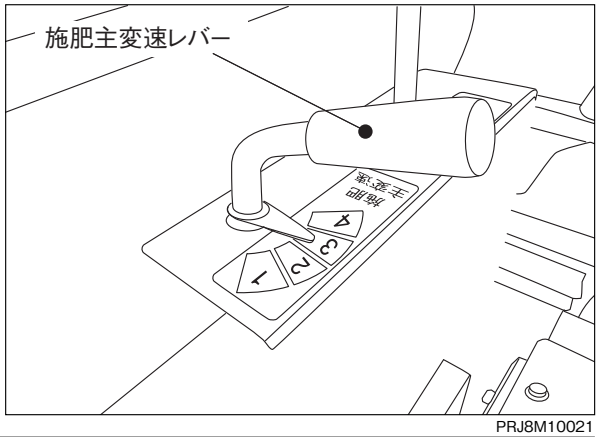
（6）ペーストの施肥ポンプが駆動していることを確認してください。

補 足

- **施肥副変速レバーが「N」(中立)位置のときは、施肥主変速レバーを操作しないでください。**
- **実際の施肥量は、ペースト肥料やほ場条件により多少変わります。**



PRJ8M00221



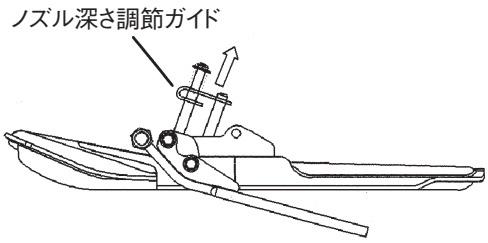
PRJ8M10021

6.1.4 ノズル深さの調節

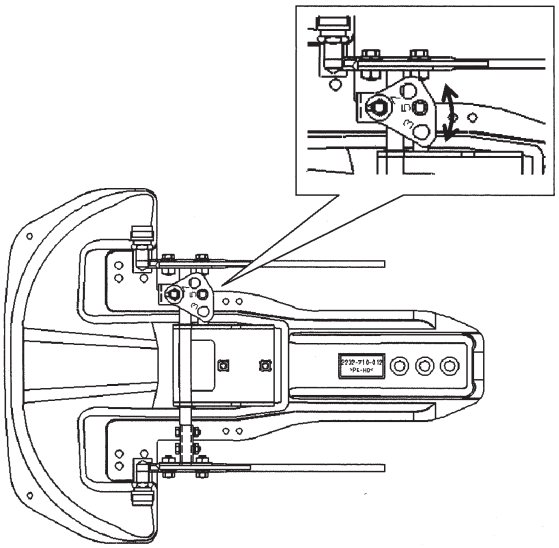
⚠ 注 意

ノズル深さの調節は植付部を上昇させ、油圧感度調節ダイヤルを「油圧ロック」位置にして、行ってください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こす原因となります。

（1）ノズルのノズル深さ調節ガイドを引き上げてください。



（2）希望のノズル深さの穴にピンが入るよう、ノズル深さ調節ガイドを回して、セットしてください。



■ノズルの施肥深さ

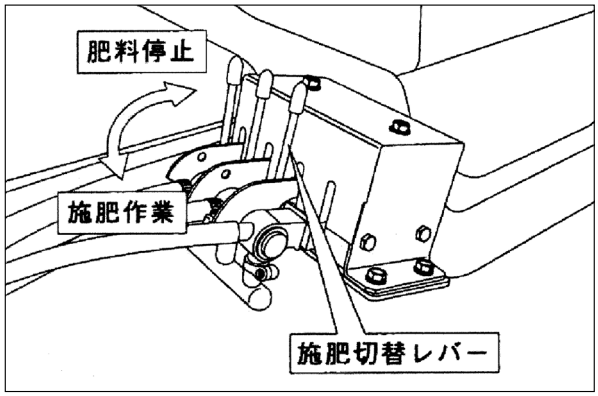
・施肥深さ「3cm」：寒冷地及び高冷地の初期成育を重視する地域
・施肥深さ「5cm」：上記以外の地域
・施肥深さ「7cm」：肥効の発生はやや遅いが、肥効を長くきかせる。

PRJ8M0050

6.2 施肥作業の手順

6.2.1 苗の補給、肥料の補給

・作業始めに苗や肥料を補給する時
（1） ペースト肥料を補給し、ポンプを駆動させて、すべてのノズルからペースト肥料が出た後、施肥切替レバーを「肥料停止」位置にします。
（2） 苗のせ台を端に寄せて苗を補給します。
（3） 施肥切替レバーを「施肥作業」位置にします。



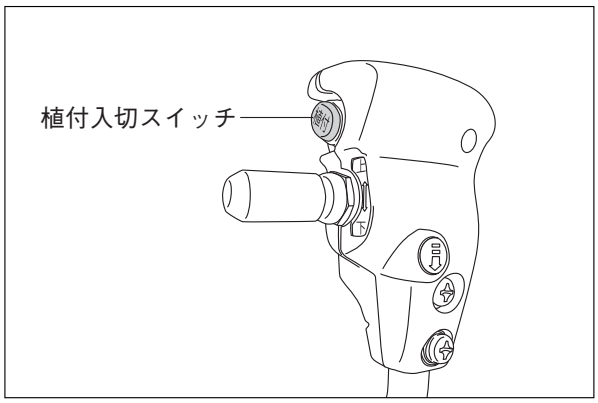
PRJ8M0023

6.2.2 肥料のくり出しかた

・植付入切スイッチを押して、植付クラッチを「入」にすると、肥料がくり出されます。
※植付スイッチと肥料のくり出しは連動になっています。

補 足

- **植付開始位置から数十cmは、肥料が撒けませんので追肥をお願い致します。**



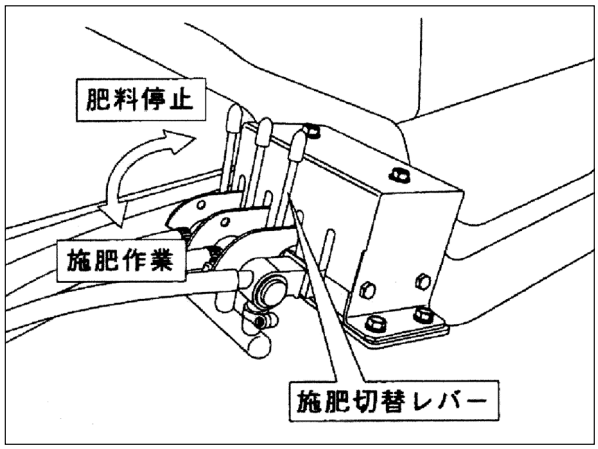
PRJ8M0058

6.2.3 施肥切替レバーの使いかた

・１条単位で植付を停止する条の施肥切替レバーを「肥料停止」位置にしてください。

補 足

- **端数植が終わったら必ず施肥切替レバーを「施肥作業」位置に戻してください。**
  施肥切替レバーを「施肥作業」位置に戻さないと肥料がくり出されません。
- **本機のあぜクラッチスイッチとは、連動しておりません。**



PRJ8M0051

6.2.4 作業速度

・作業速度を変えるとポンプの回転速度も変わり、施肥量が多少変わる場合がありますので、一定の速度で作業することをおすすめします。

6.2.5 旋回時、後進時

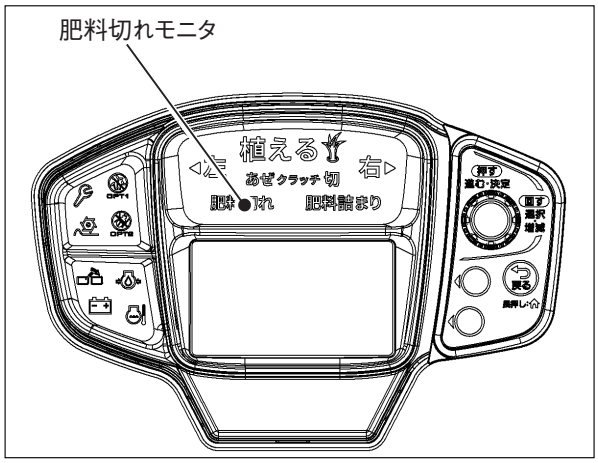
・旋回時や後進時には、必ず植付部を上げてください。

補 足

- **植付部を下げた状態で後進するとノズル内に泥が入り詰まりの原因となります。もし後進した場合には、ノズルを点検、清掃してください。**

6.2.6 肥料切れモニタの点灯

・肥料タンク内の肥料が減ってくるとモニタとブザーで警報しますので早めに肥料を補給してください。



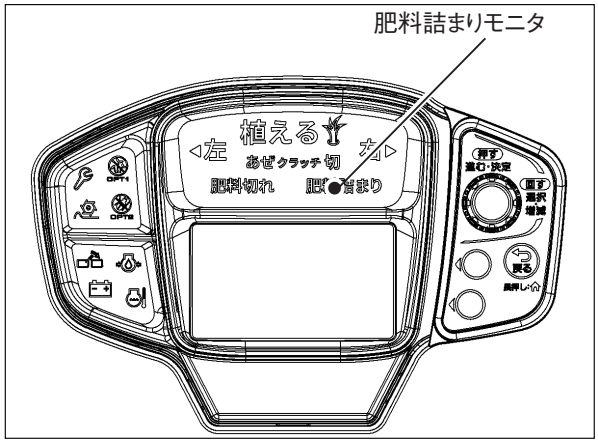
LRAF0030

6.2.7 肥料詰まりモニタの点灯

・インジケータ～ノズル間で詰まりが発生していますので、ホース内の清掃やホースの折れ部を修正してください。

補 足

- **施肥ホース内が高圧になっていますので、施肥切替レバーを「肥料停止」､「施肥作業」位置に数回操作し、内圧を下げてから作業を行ってください。**



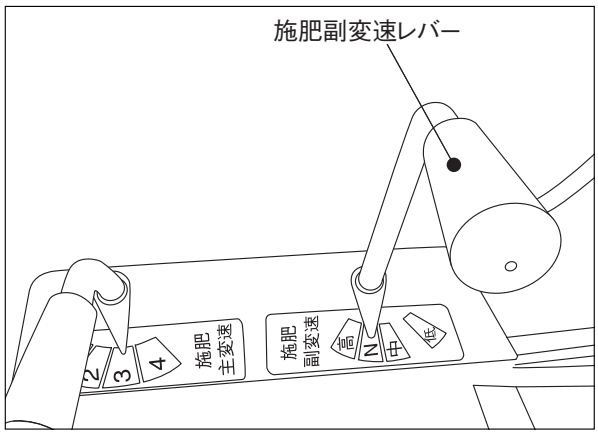
LRAF0031

⚠ 注 意

ノズル内を点検、清掃する時は、必ずエンジンを停止してください。
※ 守らないと、傷害事故の原因となります。

6.2.8 施肥作業しないとき

・施肥作業をしないで田植えをするときには、施肥副変速レバーを「N」(中立) 位置にしてください。



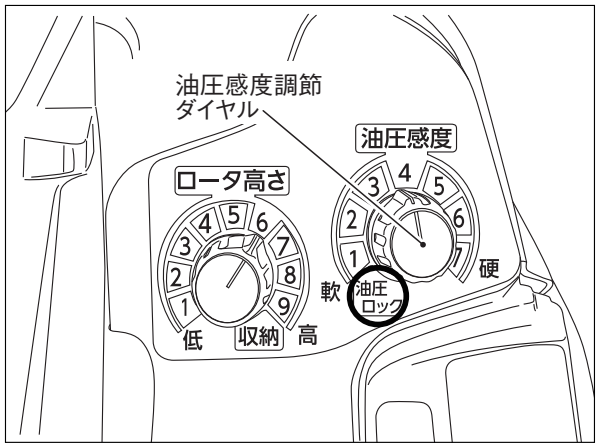
PRJ8M0063

6.2.9 ほ場に機械を放置する場合

田植時期は天候が不順です。ほ場で長時間機械を放置する場合には、必ず植付部を上げて油圧感度調節ダイヤルを「油圧ロック」位置にして、植付部が下がらないようにしてください。

補 足

- **長時間の作業中断後はペースト肥料がノズルから出ることを確認してから作業を行ってください。**



PRJ8M00316

6.3 施肥作業後の手順

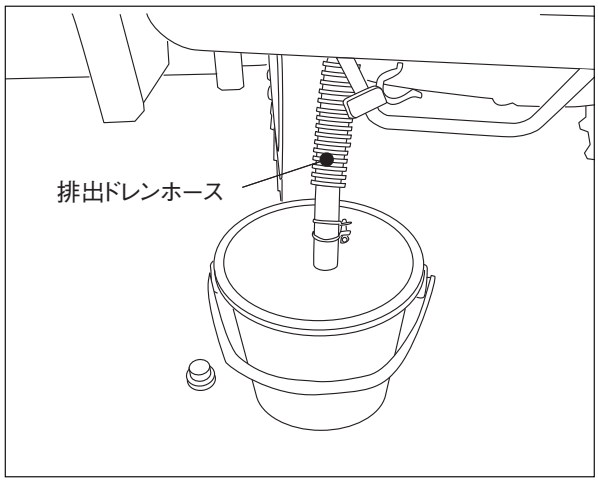
補 足

- 一日の作業が終わったら本機や施肥機に付着した肥料や泥をきれいに洗い流してください。
- 三日以上作業をしない場合は、施肥機内の肥料を全て抜き取り、タンク内に水を入れてポンプを運転させて、施肥ホースやノズル内の肥料を洗い流してください。
- 残り肥料の取り出し、肥料タンク・ポンプ・施肥ホースの清掃は平坦な場所で行うと、肥料が残りにくくスムーズに行えます。

6.3.1 残り肥料の取り出しかた

1 排出ドレンホースをフックから外してください。

2 排出ドレンホースのキャップ、クリップを外して、ペースト肥料を肥料受け（バケツ等）に排出してください。



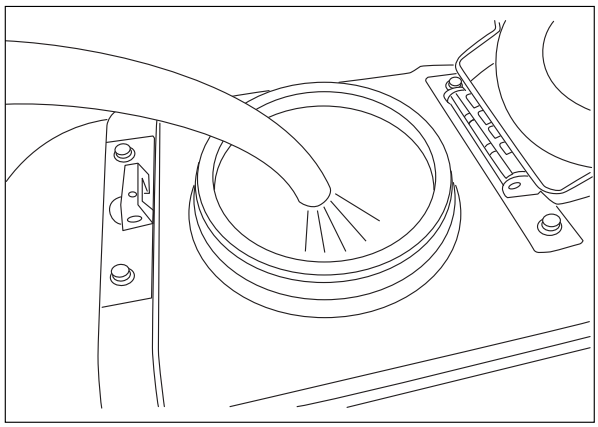
PRJ8M0065

6.3.2 肥料タンクの清掃

1 排出ドレンホースにキャップ、クリップを取り付けて、フックに戻してください。

2 肥料タンクを洗いながら、タンクに水を入れてください。

3 排出ドレンホースのキャップ、クリップを外して、肥料タンク、排出ドレンホース内の水を排出してください。
この作業を2～3回繰り返して肥料タンク、排出ドレンホースを洗浄してください。


PRJ8M0068

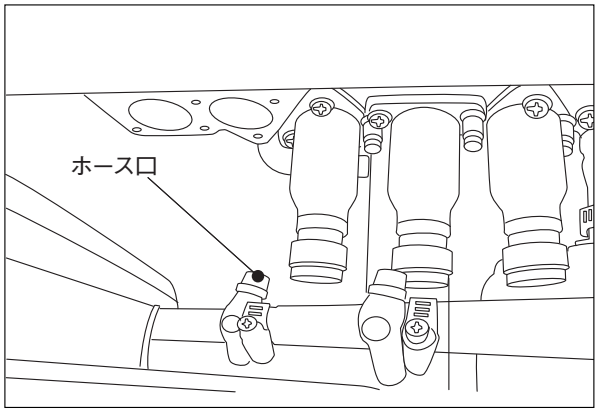
6.3.3 ポンプ、施肥ホースの清掃

1 肥料タンクに水を入れ、エンジンをかけ副変速レバーを「PTO」位置にしてください。
その後肥料をくり出しながら施肥ホースやノズル内の肥料を洗い流してください。
（ ☞ 23ページ6.2.2 肥料のくり出し方）

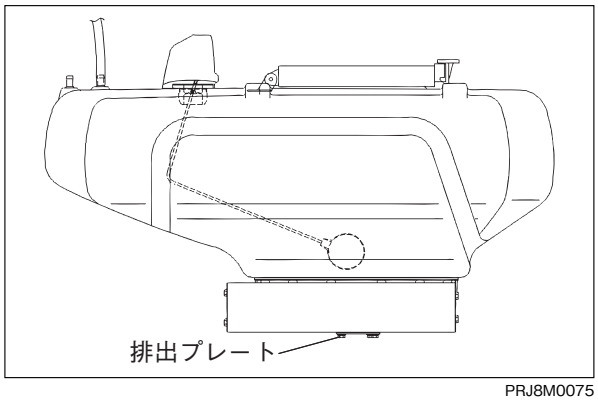
2 施肥切替レバーを「肥料停止」位置にし、リターンホース内の肥料を洗い流してください。

3 施肥切替レバーを「施肥作業」位置にし、ポンプ側の施肥ホースとノズル側の施肥ホースを取り外し、ポンプ側のホース口に水道のホースをあてて、水洗いしてください。

4 エンジンを停止し、肥料タンク下面の排出プレート（各ボルト３本）を外し、残った水を抜き取ってください。
Ｏリングを紛失しない様、元通りに組み付けてください。



PRJ8M0069



PRJ8M0075

⚠ 警 告

ほ場の出入口等の傾斜面で副変速レバーを「PTO」位置にしないでください。
※　田植機が自然に動き出し、傷害事故の原因となります。

7. 点検整備

7.1 定期的な点検整備

⚠ 危険

作業中は火気厳禁です。
※ 守らないと、火災の原因となります。

⚠ 警告

点検・整備をするときは、平たんな広い場所で行ってください。
※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

点検や整備をするときは、十分な明るさを確保してください。
※ 暗い所で行っていると、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

点検・整備をするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキペダルをロックし、植付部を降ろすか植付部の油圧を油圧感度調節ダイヤルで「油圧ロック」位置にしてから行ってください。
※ 守らないと、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりするおそれがあります。

点検・整備するときは、マフラ等の過熱部分のゴミ・ホコリはきれいに取り除いておいてください。
※ 怠ると、作業中に発火して火災を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

点検・整備を行うときは、適正な工具を正しく使用して行ってください。
※ 守らないと、整備中の傷害事故や整備不良による傷害事故を引き起こすおそれがあります。

点検・整備で取り外した保護カバー類は、必ず元のとおりに取り付けてください。
※ 外したままエンジンをかけると、回転部や過熱部がむき出しになり、傷害事故の原因となります。

傷害や火災のおそれがある場合は、救急箱や消火器を準備してください。
※ 万一、傷害や火災が起きても大事に至ることを防ぎます。

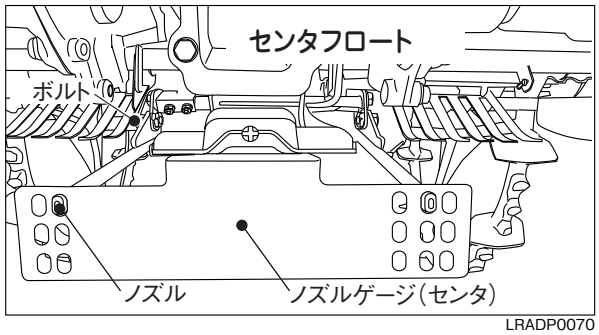
7.1.1 点検・給油・調整一覧表

○：点検　△：交換

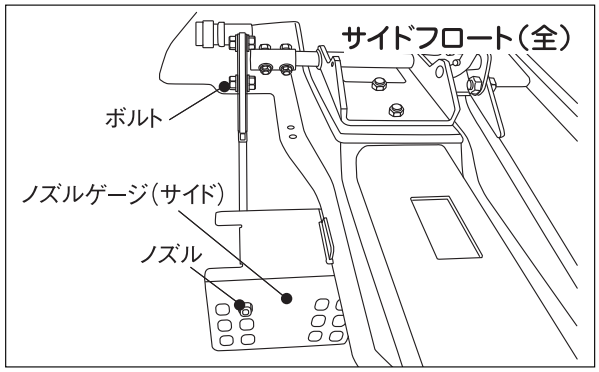
点検・給油・調整項目	点検時間		備考	参照ページ
	毎　日	不調時		
注油指定箇所	○		注　　油	16
ノズル		○	変形時・毎シーズン始め点検	29
ポンプ		△	故障時・毎シーズン始め点検	8

7.1.2 ノズル深さの調節

・ノズル深さを「3cm」または「5cm」を基準とし、ゲージ穴に入れて点検してください。
・ゲージ穴に入らない場合は、ノズル取付けボルトをゆるめ、再調節してください。



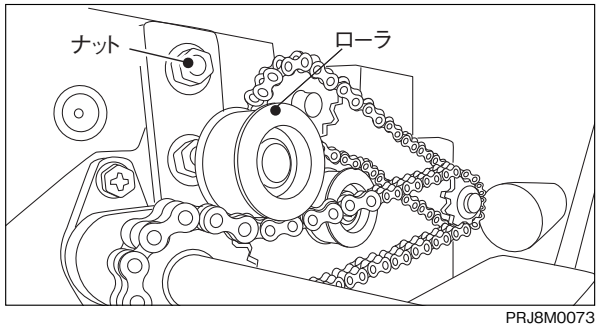
LRADP0070



PRJ8M0072

7.1.3 チェン張りの調節

・ローラが軽くチェンに接しているか確認してください。
・接触していない場合、ナットをゆるめ、調節してください。(調整箇所の詳細は ☞16ページ)



PRJ8M0073

8.　格納時の手入れ

8.1　日常の格納

⚠ 危 険

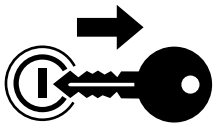
作業が終了して、シートカバー等を田植機にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行ってください。

※　熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因となります。

⚠ 警 告

格納するときには、メインスイッチのキーを必ず抜いてください。

※　守らないと、いたずら等で重大な事故になることがあります。



注 意

洗車をするときは、電装品、給油口、安全表示ラベル貼付箇所には圧力水をかけないでください。

※　圧力水をかけると、故障の原因となったり、安全表示ラベルのはがれを起こしたりします。

1　その日の内に肥料タンク・肥料の通路を水洗いし、ゴミ等をきれいに取り除いてください。

2　水洗後、水滴を十分ふき取ってください。

3　肥料は機体を腐食させますので、錆びやすい所にはグリースを塗ってください。

8.2 長期格納

⚠ 危険

作業が終了して、シートカバー等を機械にかけるときは、加熱部分が完全に冷えてから行ってください。
※ 熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因となります。

燃料抜取時は火気厳禁です。
※ 守らないと、火災の原因となります。

⚠ 警告

田植機の格納場所は、十分な明るさを確保してください。
※ 点検や移動等のとき、暗い所で行っていると思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

燃料を放置しないでください。
※ 放置すると燃料が変質するばかりでなく、引火など火災の原因となるおそれがあり、大変危険です。

1 肥料タンク・肥料の通路を水洗いし、ゴミ等をきれいに取り除いてください。

2 水洗後、水滴を十分ふき取ってください。

3 肥料は機体を腐食させますので、錆びやすい所にはグリースを塗ってください。

4 燃料を満タンにして水の発生を防いでください。

9. 不調時の処置

9.1 不調と処置

不調の内容	原 因	処 置方法
肥料詰まりモニタランプが点灯し、警報がなり、ノズルから肥料が出ない。	● インジケータからノズルまでの施肥ホース内、ノズル内に詰まりがある。 ● インジケータからノズルまでの施肥ホースに折れがある。	● 施肥ホース、ノズル内を清掃する。 ● 施肥ホースに折れがあるときは、折れ部を修正する。
ノズルから肥料は出ているが、時々肥料詰まりモニタが点灯する。	● ポンプからノズルまでの施肥ホース内、ノズル内に異物等があり、流路の一部をふさいでいる。	● 施肥ホース、ノズル内を清掃する。
肥料タンクに肥料を入れても肥料切れモニタが点灯し、警報がなる。	● 肥料警報センサの作動不良。 ● 肥料警報センサのハーネスの接触不良または断線。	● 肥料警報センサのフロート作動部を点検し、フロートがスムースに動くようにする。 ● 肥料警報センサのハーネスを点検し、修正する。
肥料タンクの肥料がなくなっても肥料切れモニタが点灯せず、警報もならない。	● 肥料警報センサの作動不良。 ● 肥料警報センサのハーネスのショート。	● 肥料警報センサのフロート作動部を点検し、フロートがスムースに動くようにする。 ● 肥料警報センサのハーネスを点検し、修正する。

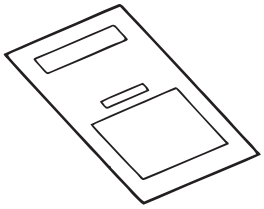
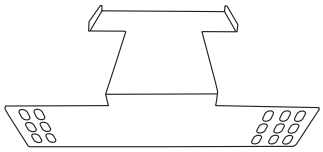
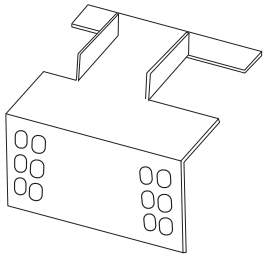
10. 付表

10.1 主要諸元

販売型式名		LRA10D	
仕様区分		PHB4	WPHB4
機体寸法	全長（mm）	3700	
	全幅（mm）	2370	2520
	全高（mm）	2300	
重量	重量（本機含む）（kg）	1240	1260
	施肥機のみ（kg）	50	
使用肥料		ペースト施肥複合(12-12-12)(10-16-12)	
ポンプ	駆動方式	チェン駆動	
	変速方式	レバー式(2本)	
	変速段数（段）	12	
インジケータ	方式	電気式(圧力感知式)	
	表示位置	運転席パネル	
肥料タンク（L）		100(50×2箇所)	
施肥位置（mm）		苗側方:20、深さ:30、50、70	
施肥クラッチ		植付クラッチ連動	

○仕様は改良のため変更することがあります。

10.2 標準付属品一覧表

形　　状	型式	品　　名	部品コード	個数
	P仕様	マニュアル （オペレーション）	9573 0000 020	1
	P仕様	ノズルゲージ（センタ）	9573 0000 080	1
	P仕様	ノズルゲージ（サイド）	9573 0000 090	1

純正部品を使いましょう。

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号（製造番号）は…？

型　　式 _____

機械番号（製造番号） _____

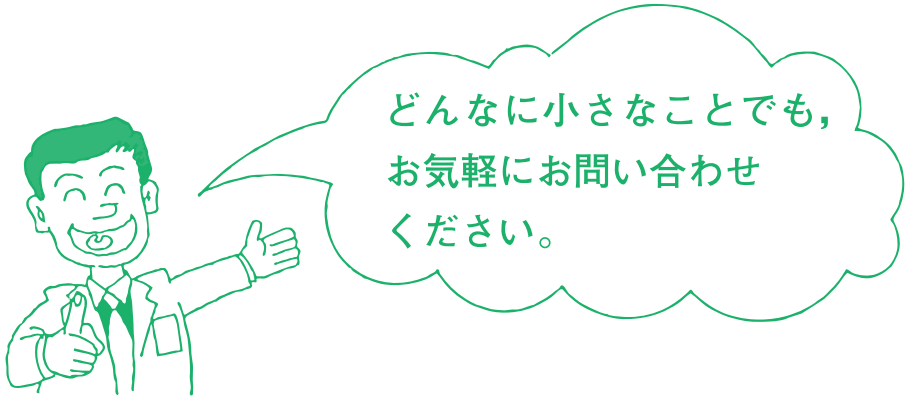
●ご使用状況は…？

（どんな作業のとき）

●どのくらい使用されましたか？

（約 _____ アール使用後）

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



（ご相談窓口）お買いあげ先

TEL　　（　　）

No.9573 0000 020